

道南の農業

道南地域では、温暖な気候を生かした野菜作、稲作のほか、馬鈴しょ、豆類などの畑作や酪農などの集約的農業が営まれています。
この地域は、経営規模が小さく、専業農家が少ないほか、農家戸数・所得の減少、農業者の高齢化など多くの問題を抱えており、品質の向上、省力・軽労働、低コスト化などが技術的課題となっています。

道南地域の農業統計(平成22年度農業センサスほか)

管内	経営耕地面積		販売農家戸数			農業産出額	
	ha	1戸あたり面積	戸	兼業比率	65歳以上%	千万円	耕:畜割合
渡島	17,387	8.5	2,032	46%	34.5%	3,375	(54:46)
檜山	15,236	11.4	1,330	49%	36.6%	1,466	(76:24)
北海道	942,368	21.4	44,050	39%	32.0%	101,110	(48:52)

農業環境

気象

道南地域は、道内では比較的温暖で、春は早く秋は長く、道央や道北・道東と比べると全般的に最低気温は高いですが、春から夏には、しばしばオホーツク海高気圧の発生に伴い、海を渡ってくる「やませ」の影響を受け、最高気温がやや低くなります。
冬期間は積雪は少なく、真冬日も少なく、函館市での暖候期(5月から10月)の積算温度は3,063℃、降水量は693mm、日照時間978時間です。

道内の主な農業地帯の気象条件

地帯(都市)	無霜期間	積雪合計	真冬日	年平均気温	年間降水量	年間日照時間
	(日)	(cm)	(日)	(℃)	(mm)	(h)
道南(函館)	167	381	29	9.1	1,152	1,748
道央(札幌)	184	597	45	8.9	1,107	1,740
道北(旭川)	146	743	77	6.9	1,042	1,591
道東(帯広)	147	201	56	6.8	888	2,033

(注)気象庁発表年値(1981~2010までの30年平均値)から算出

土壌条件

道南地域の農耕地は、山岳地の裾の丘陵や台地、中小河川の流域の沖積及び海成沖積の平坦地にあり、土壌は、火山性土壌が47%、低地土が39%、台地土が6%、泥炭土が8%となっており、ほとんどの地域には、駒ヶ岳、恵山、神居岳、渡島大島の火山灰が分布しています。



管内の土壌分布

- 淡色黒ボク土
- 表層腐植質黒ボク土
- 厚層多腐植質黒ボク土
- 低地土
- 褐色森林土
- 泥炭土

試験場への案内図



施設・圃場配置図



農業研究本部配置図



道南農業試験場 参観のしおり

平成25年度



庁舎全景



水稲世代促進温室



シンボルツリー ユリノキ

〒041-1201 北海道北斗市本町680番地
TEL 0138-77-8116
FAX 0138-77-7347
E-mail donan-agri@hro.or.jp
<http://www.agri.hro.or.jp/dounan/dounan.htm>

おいたち

明治42年、地元からの強い要請に基づき、渡島、檜山支庁管内の農業の発展に資することを目的として、大野村(現北斗市)に北海道庁立渡島農事試験場が開設されました。その後、国費運営への移管、道立運営への復帰等の変遷を辿りましたが、平成21年7月で創立100周年を迎えた歴史ある試験場です。

平成22年4月1日、地方独立行政法人北海道立総合研究機構農業研究本部 道南農業試験場となり、新組織で101年目のスタートが切られました。

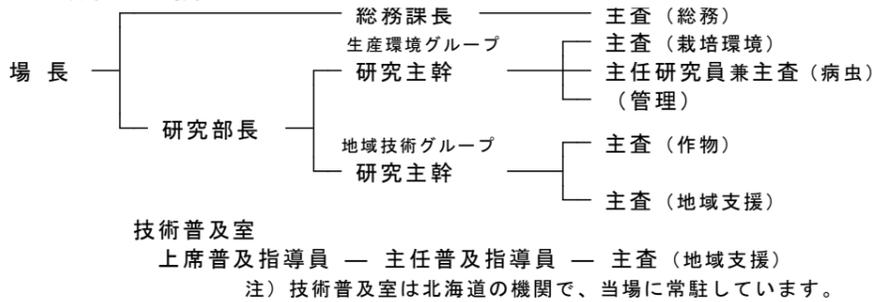
役割と機構

役割

全道に8ヶ所ある農業と畜産に関する試験場の一つで、主に道南地域に対応した園芸、稲作の試験研究に取り組んでいます。

水稲の世代促進、施設利用野菜の品質向上、低コスト・省力化、人と環境にやさしい病害虫防除、施肥・土壌管理技術の開発などを行っています。さらには、これらの研究成果や生産者の知恵・意欲を結集させて地域農業の振興に努めています。

機構



仕事の内容

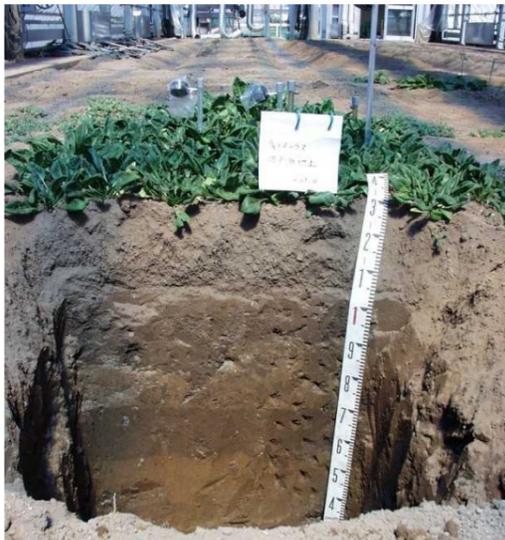
栽培環境

環境との調和をめざして

園芸作物を中心とした土壌や施肥に関する技術開発を行っています。ポット内施肥などによる肥料削減技術の開発や、ハウス内輪作における適正施肥体系の確立、各地の生産者圃場での土壌モニタリングなど、環境と調和した持続性のある農業をめざす試験研究に取り組んでいます。



ねぎ育苗時のポット内施肥試験



水はけの良さなどを調べる土壌断面調査



原子吸光度計

仕事の内容

病虫

病害虫の減農薬防除をめざして

病害虫の発生生態を調査し、農薬の効率的な使用法、生物農薬の利用法など減化学農薬技術の開発を行っています。

カボチャの高度クリーン農業、大豆の紫斑病、水稲のアカヒゲホソミドリカスカメの減農薬防除技術に取り組んでいます。このほかに、水稲や野菜の発生予察調査や病害虫の診断を行っています。



大豆紫斑病の被害粒



水稲の斑点米

作物

道南地域向け品種の育成支援と栽培法の開発をめざして

各種作物の栽培技術確立や水稲の品種改良に取り組んでいます。近年の成果では、ブロッコリーの品種特性(H23)、ベビーリーフの品目特性と土耕栽培技術(H24)、周年被覆ハウスを利用したアスパラガス立茎栽培法(H24)、水稲良食味品種「ふっくりんこ」(H15)、「きたくりん」(H24：中央農試と共同)などを開発しました。

現在は、地域ブランド確立を目指したリーキの栽培法、さつまいも導入に向けた品種特性評価および栽培法、ねぎの8月どり品種特性、水稲直播栽培における効果的除草体系の現地実証、世代促進温室を活用した水稲優良品種候補の育成年限短縮などに取り組んでいます。



ベビーリーフの収穫風景



さつまいもの収穫



リーキの生育状況



水稲世代促進温室での収穫風景

仕事の内容

地域支援・技術普及室

開発された技術の普及定着をめざして

農業試験場の役割の中では地元から求められる技術を的確に把握し、試験を実施することが大切です。

地元関係機関からの要望については、渡島・檜山両振興局や農業改良普及センターとともに道南地域農業技術支援会議を運営し、迅速な対応に努めています。

また、各農業センターとともに道南地域農業技術センター連絡会(道南NATEC)を運営し、地域農業に関する情報共有を図っています。

道南農業試験場技術普及室には、道庁技術普及課所属の普及指導員3名が常駐し、研究員や普及センターとの連携や調整を図りながら、農業生産技術の迅速な普及と定着のために活動しています。



地域要望に対応した取組み (左：ねぎ調査、右：秋まき小麦調査)

管理

研究をサポート

水田や畑の耕起など試験ほ場の設置を行うとともに、病害虫防除やほ場の中耕など作物の管理を行っています。

また、ハウスの設置やかん水装置等の取り付け、たい肥や育苗床土の製造、各種作業機械の保守・点検・整備、各種器具や施設の用具など種々の作業等を行い、試験研究を支えています。

さらに、農道の整備・補修、ほ場や庁舎周辺の草刈りなどの環境整備、冬期の除雪等、施設、ほ場の管理全般を行っています。



水田の代かき作業



水稲直播の播種作業

総務課

研究をサポート

試験研究が円滑に行われるよう、予算及び財産の管理、施設の整備、補修、物品の購入等の事務を行っています。

また、地域に開かれた試験場として、参観者の受け入れ窓口となっております。

参観ご希望の方は、①視察者の所属と人数、②希望する日時、③視察したい事項(水稲、野菜、病虫、土壌・栽培環境等)、④申込者の連絡先等を当課にご連絡ください。(連絡方法：電話、FAX、メール等)